

# 5年間の運用から見る学生相互影響型 e ポートフォリオによる就職支援

早川 楽\*1・安井 敏裕\*2

Email: raku@anzas.net

\*1: アンザインターナショナル株式会社

\*2: 大手前大学 キャリアサポート室

◎Key Words e ポートフォリオ, 就職支援, 携帯端末

## 1. はじめに

大学などの教育現場では、学習や課題活動の履歴をデータベースに蓄積し、その情報を活用する e ポートフォリオが浸透しつつある<sup>1)</sup>。例えば、学習コンテンツを管理、蓄積するもの、学習成果や活動履歴を管理するものや一元化するもの、教職員学生間で情報を共有、相互発信するものなどが挙げられる<sup>2)</sup>。

大手前大学では、就職活動における活動履歴をデータベースに集約し、教員やキャリアサポート室職員だけでなく、学生が相互に情報を共有できる e ポートフォリオシステムを 2010 年の時点でいち早く開発し、2015 年現在、5年間の運用実績を積み上げてきた。システムの開発はアンザインターナショナル株式会社が担当した。

本報告では、大手前大学における 5 年間の運用実績から、その成果について分析する。また、システム利用上の具体例などを示しつつ、本ポートフォリオシステムの有用性について述べていく。

## 2. e ポートフォリオシステム

### 2.1 システム概要

大手前大学では、学生ごとの就職活動に関するあらゆる履歴や実績を書き残し、一元管理するための e ポートフォリオシステム「就カツくん」を 2010 年に独自開発し、2015 年現在まで運用している。

本システムは、就職活動と進路決定に特化しており、利用期間は大学 3 年生の始めから大学 4 年生として卒業するまでの間である。対象学部は大手前大学の全学部であり、本システムにより全学生を漏れなく網羅的に管理することができる。

学生側機能は PC と携帯端末（スマートフォンを含む）の両対応としているが、主として外出先から携帯端末で利用することを想定している。企業説明会や面接への参加前後に、自身や他者の記録や履歴を参照したり、参加事後には記憶や気持ちが薄れないうちに即座に活動記録を残したり、といった利用を想定している。

### 2.2 利用者別システム機能と対象

本システムは教職員および学生のいずれも利用するシステムとして運用されている。学生は前述のとおり、主に大学 3 年生以降、職員は主としてキャリアサポート室職員と就業力育成に関わる者、教員はゼミナールや卒業研究を担当する教員と想定している。利用者区分別のシステムの主な機能と役割は表 1 のとおりである。

表 1 利用者別の機能と対象

機能項目	対象	学生側機能	教職員側機能
お知らせ	全学生向け	メッセージ受信	メッセージ配信
進路情報	学生別	進路希望情報登録、修正	進路希望情報参照、修正
企業アプローチ	学生別・企業別	エントリー企業別の活動記録の蓄積、参照	関連する支援の記録と参照（書類添削、関連面談など）
一般活動記録	学生別	なし（非公開）	一般面談記録、特記事項などの記録と参照 / 学内説明会等の参加記録と参照
みんなへの一言	企業別	他者への有益情報の記録と配信 / 他者の書き込み参照	学生の書き込み参照

教職員から見ると、主として学生別の活動履歴や対応履歴を一元管理する学生カルテ的な役割が大きい。学生から見ると、自身のポートフォリオ的な役割、他者の情報の参照や相互交流といった SNS 的な役割などがある。

## 3. システム運用実績

### 3.1 集計対象

大手前大学において、2010 年度から 2014 年度までの 5 年間に学生がどのように利用していたのか卒業年度別に集計を行う。2014 年度学生グループとは、おおよそ 2013 年 4 月から就職準備を行い、2015 年 3 月に卒業していった学生たちを意味する。

集計する項目は、ログイン回数、総記録数（企業アプローチや一般活動記録など全て）、学生企業アプローチ数、みんなへの一言の書き込み数とする。みんなへの一言については、実際にどのような書き込みややりとりが展開されたのか、具体的な例を示す。

### 3.2 数値から見る 5 年間の変化

システムのログとデータベースを参照し、測定可能な数値データから 5 年間の変化を表したものを図 1 に示す。

縦棒グラフで示しているログイン回数と企業アプローチや一般活動記録などを含む総記録数は、教職員の活動も学生の活動も含んだ値である。システム利用の活発さ

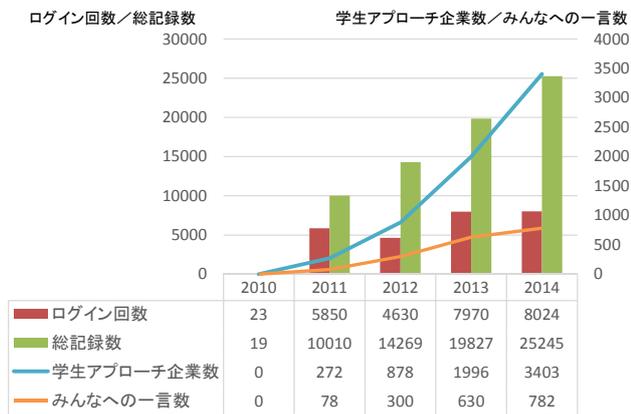


図1 数値で測る5年間の変化

を表す値として集計した。折れ線グラフで示している学生アプローチ企業数とみんなへの一言数は、学生の書き込み数のみを集計した値である。学生の利用度がどのように変化しているのか測るために集計した。

本システムは2010年度に開発が始まり、2010年9月ごろから導入と運用開始されたため、卒業まで間近の2010年度卒業の学生たちに関する利用はごくわずかであった。

導入当初はシステムへの慣れが必要であったため、教職員学生ともに探り探り活用していたが、慣れるにつれて有効的で効率の良い活用方法がわかり、加速度的に利用が増えていった。

学生アプローチ企業数が増えている点は、以前の学生が企業へのエントリーごとに本システムへの記録や登録を行っていなかったということの意味する。近年の学生アプローチ企業数の伸びは、本システムの有用性の向上と、学生の意識の変化の両方が考えられる。

### 3.3 就職活動カルテとしての活用事例

就職活動履歴は、教職員および学生の双方が入力する。教職員は原則すべての情報が参照可能であるが、学生が参照できる情報は個別に設定が可能である。

キャリアサポート室では、ガイダンスへの参加状況や面談記録などを記録し、一方で学生はエントリーシートや履歴書を提出、説明会への参加、面接や筆記試験などの履歴を記録する。教職員はこれらの記録をカルテとして参照し、各学生の状況を細かく把握することが可能になっている。

表2 ある企業のみんなへの一言の書き込み例

発信者	内容
Aさん	筆記試験難しいです。
Bさん	SPIですかね？
Cさん	どんな問題が出ましたか？
Dさん	説明会に19日行きます！
Aさん	SPIじゃないです。『私の父は』の続きを書きなさいみたいなのが60問、短文作成50分。数列、影の問題、速さの問題、時事問題、適性テスト20分。
Bさん	ありがとうございます。参考になりました。
Eさん	とてもお客様目線で売場を作っている素晴らしい企業だと思いました。
Fさん	面接官は企業の店長さんで、とてもフレンドリーで話しやすい雰囲気でした。面接時間は30分程。3週間以内に連絡が来るそうです。

### 3.4 みんなへの一言の活用事例

学生が学生に影響を与えるSNS的な利用について、書き込みの展開例を表2に示す。

ある学生が残した足跡について、他の学生が関連して質問したり、質問を返したりしながら相互に支え合っている様子がわかる。また、過去のやりとりを見て、どのような情報が有益なのか各自判断し、さらなる情報を発信している様子が伺えた。情報の蓄積が加速度的に価値を生み、図1で見られるようにみんなへの一言数の増加に至ったと考えられる。

## 4. 今後の調査と研究

本報告ではeポートフォリオシステム「就カツくん」のデータベース上に蓄積されているデータやログから、利用者数や書き込み数の変化を調査し、実績を述べた。これらのデータから、積極的にシステムを利用した学生の様子を捉え、傾向や結果を分析し、評価したり考察したりすることは可能であったが、一方、システムに足跡を残していない学生の様子がどうであったのかは測ることができなかった。また、いずれの学生においても、システムに記録されていない本音やシステムへの評価、印象といった情報は採ることができていない。これらの新たな視点で本システムを分析、評価するために、今後はアンケート調査やヒアリングを行うことを検討している。具体的に学生が就職活動に役立った、と高く評価するデータやタイミングなどを特定することができれば、運用の工夫やシステムの拡張などにより、よりいっそう多くの学生の支援に繋がると考えられる。

## 5. おわりに

本報告では大手前大学における就職活動支援のためのeポートフォリオシステムの運用に関して、5年間の取り組みを振り返って考察を行った。導入当初は、それまで職員が学生ごとの対応履歴を束ねる紙バインダーから電子カルテへの移行の意味合いが強く、部署を支えるシステムとして有効に活用されていたが、近年では学生の書き込みや学生間の参照が増え、就職活動における有効なシステムへと定着していった。また、この5年間の実績と評価から、大手前大学の関連校である大手前短期大学でも同eポートフォリオシステムが2015年度より導入され、運用され始めた。

eポートフォリオの活用については、様々な大学や学校で、様々な形式で導入され、有効な活用法を模索している段階にある。本報告が今後のeポートフォリオの普及と展開の助力となれば幸いである。また、今後の世の中の動向や様々な活用実績を踏まえて、本システムもさらなる進化を目指していきたい。

### 参考文献

- (1) 森本康彦: “高等教育におけるeポートフォリオの最前線”, システム制御情報学会誌, No10, pp.23-29 (2011).
- (2) 武沢護, 島崎綾太: “教職大学院におけるクラウド型eポートフォリオの活用 —統合支援システムとしてのmanabafolio—”, PCカンファレンス2014年度全国大会, pp.138-139 (2014).